

オーガナイズドセッション & ライブデモンストレーション： 音楽の未来を実装すること

永野 哲久^{*1} 大山 宗哉^{*2} 宮下 芳明^{*2*3}

Organized Session: Implementation of the Future of Music

Norihisa Nagano^{*1} Sohya Ohyama^{*2} and Homei Miyashita^{*2*3}

1. 本セッションの目的

今日、音楽の概念が変わりつつあることが指摘されている[1][2]。膨大なデータベースから、あらゆる地域・あらゆる時代の音楽をたやすく入手し携帯できるようになった。音楽制作ツールはより使いやすくなり、ボーカリストすらソフトウェア化され、広く普及するようになった。これまで音楽を聴くだけの受動的な立場にあったリスナーたちが、能動的に音楽をリミックスし、それを世界中に配信できるようになった。

音楽の作り方・流通の仕方・聴き方が変わるといった程度の変化ではない。音楽と人間が関わる行為自体、果ては「音楽」という言葉が指す概念自体が揺らぎはじめていると言っても過言ではないだろう。

こうした変革が起こっているいま、音楽にはどのような未来形が考えられるのだろうか。そして、どのようなかたちを理想形とすべきなのだろうか。現在、この議論は70-80年代生まれの若手研究者／アーティストたちを中心に活発化しており[3]、未来を占うための手段として、様々なシステムが「実装」されている。

本セッションでは、こうした背景をふまえ、音楽の未来はどうあるべきなのか、そして研究者／アーティストはそのためにな何をすべきなのかをテーマとしてディスカッションを行う。パネリストとしては、公開議論「いつか音楽と呼ばれるものを考える」のメンバーであり、サウンドファイルと曲の構成情報を参加ユーザー間で共有するシステム *movalsystem* の開発者である永野、メディアアーティストとして活動する大山、コンテンツが変容するさまを学問する「デジタルコンテンツ学」を提唱する宮下が参加し、システムのライブデモンストレーションも行う。フロアからも活発な議論が行われることを期待している。

2. パネラー紹介

永野 哲久

1977年生まれ。フリーランス・プログラマー。現在、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修士課程在籍。主なプロジェクトとして2005年度上期 未踏ソフトウェア創造事業「Monalisa」、2006年 NTT ICC 「Monalisa 音の影」インストール等。Audible Realities では、環境変換装置としての iPhone をテーマに iPhone アプリケーションを開発。「いつか音楽と呼ばれるものを考える」Podcast では音楽の新しい形への議論を公開中[3]。

大山 宗哉

1985年 東京生まれ。2008年 明治大学 大学院理工学研究科 新領域創造専攻 デジタルコンテンツ系 在学中。東京芸術大学 公開講座 非常勤講師 (2008年-)。

宮下 芳明 (オーガナイザ)

1976年生まれ。博士(知識科学)。2004年 減算式作曲を実現するシステム *Thermoscore*[4]等を用いたソロコンサート「音楽の条件」[5]を開催。2006年、五拍子サンプリング CD「4++」シリーズを制作。2007年より明治大学理工学部情報科学科専任講師(デジタルコンテンツ学)。

参考文献

- [1] 増田 聡, 谷口 文和. 音楽未来形—デジタル時代の音楽文化のゆくえ, 洋泉社, 2005.
- [2] David Kusek, Gerd Leonhard (著), yomoyomo, 津田大介 (訳). デジタル音楽の行方, 翔泳社, 2005.
- [3] <http://nagano.monalisa-au.org>
- [4] 宮下芳明, 西本一志: 演奏者の触発インタフェースとしての楽譜 その拡張と可能性, ヒューマンインタフェース学会論文誌「プロスペクティブ論文特集号」, Vol.7, No.2, pp.37-42, 2005.
- [5] 宮下芳明, 西本一志: 「音楽の条件」とは何か?, 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.10 No.1, pp.11-20, 2005.

^{*1}: 情報科学芸術大学院大学

^{*2}: 明治大学 大学院 理工学研究科 新領域創造専攻

^{*3}: 明治大学 理工学部 情報科学科